

## 三陸の近景

3

### 海の暮らし

東北教区災害ボランティアセンター陸前高田出張所「とまり木」は、陸前高田市内の広田町という場所にあります。広田町は岩手県沿岸部南端の太平洋に突き出した半島一带に位置し、陸前高田市に併合されるまでは一つの町を形成していました。広田町には2008年まで水産高校があり、海で泳ぐのが趣味だと言われる方も多く出会います。潮の香り漂う海の暮らしが根付いた町なのです。

津波は、広田町の人々の生活を一転させました。漁船を含む漁具は破壊され、わかめ、かき、帆立の養殖業まで壊滅的な被害を受けました。貝類の養殖は現在、収穫できるものもあるそうですが、まだ市場へ出荷できる状態には戻っ

ていないそうです。それでも地道に漁港は整備され、海底に沈んでいるがれきは順調に回収されていると聞きました。漁業の再興が進んでいるといえます。



しかし、全てが順調とは言えないようです。広田町は「三陸の湘南」と呼ばれるくらい短い夏を楽しむ海水浴客でにぎわっていたと誇らしげに話してくださる方がいました。実は震災後、多くあった砂浜は1カ所を残してことごとく

地盤沈下のために海底に消えてしまいました。海水浴を楽しめる場所が無くなり、海水浴の景色を思い出す、懐かしむ場所すらなくなってしまったのが現状なのです。

残された1カ所の砂浜も整備されない状態なので、どうして整備されないのか地元の方に尋ねてみました。すると、砂浜や遠浅の海中のがれきがまったく手つかずの状態で危険なのだという答えが返ってきました。行政には行楽地に予算をつぎ込む余裕はまだ無いとのこと。また、砂浜は出来上がるのに30年以上かかるから、震災前の景色に戻ることは想像がつかないとその方は言われました。

おそらく、本来の海の暮らしとは、生業と行楽が両立するものだったはず。今年も海水浴客はゼロのまま広田町の夏は過ぎ去りました。震災から2年半が過ぎようとしています。本当の海の復興はまだまだ遠いのです。(金澤 豊)